

考古学への旅 Part.9

2010 年度文化財センター発掘調査報告

2011.2.26

報告 1

豊栄町乃美 の み 乃美 3・4 号遺跡 石垣敏之

—古墳時代・中世の集落跡—

報告 2

西条町西条 み た て 御建遺跡 増田晴美

—中世の集落跡—

報告 3

西条町御薗宇 なかぐみ 中組遺跡 吉野健志

—中世～近世の塚—

考古学への旅 Part. 9

乃美 3・4 号遺跡の発掘調査について

はじめに

乃美 3・4 号遺跡は、経営体育成基盤整備事業（乃美地区）に伴って見つかった遺跡で、平成 22 年 6 月から 9 月まで発掘調査をしました。

計画地内では、国指定特別天然記念物オオサシノウウオ、東広島市指定天然記念物カスミサシノウウオの生息が知られ、希少な植物も多数存在します。また、乃美 3 号遺跡と乃美 4 号遺跡のほぼ中間には乃美本宮八幡神社が存在し、当該地域が豊かな自然と文化財に恵まれた地域であることがわかります。

乃美 3 号遺跡

東に伸びる丘陵南側の緩やかな斜面に立地する集落遺跡です。後世の削平が著しく、遺構の残りが心配されましたが、古墳時代の竪穴住居跡 3 棟とほぼ完形の土師器が出土した土坑や中世の溝などが見つかっています。竪穴住居跡 2 棟は、壁溝と呼ばれる壁際を廻る浅い溝が見つかりました。もう 1 棟の竪穴住居跡は、規模が小さく、柱穴も 2 基しかありませんでした。

調査区の中からは、古墳時代の素焼きの土器である土師器がほぼ完形で出土しましたが、須恵器があまり見つかっていません。一方、遺跡南側の谷の中には、遺構（住居跡や土坑など）は見つかりましたが、須恵器などが見つかっていません。

乃美 4 号遺跡

本宮八幡神社が存在する丘陵南側の緩やかな斜面に立地する集落遺跡です。時代は不明ですが、袋状土坑（断面がフラスコのような形）や中世の掘立柱建物跡、近世のゴミ捨て穴などが見つかっています。B 区の中央部は、浅く窪んで黒褐色土が堆積していました。この黒褐色土はほぼ単一層でしまりがなく、土師質土器のカワラケを多量に含んでいましたので、中世後半から近世前半頃に、短時間で堆積したものと考えられます。

おわりに

今回は、それぞれの遺跡のごく一部を発掘調査したに過ぎません。弥生時代の遺構はわからないけれど、弥生土器の存在は明らかになっていますので、周辺のどこかに集落跡がありそうです。また、乃美 4 号遺跡のすぐ北側に存在する宮ヶ迫古墳群は、横穴式石室を主体部とする古墳ですので、乃美 3 号遺跡の土師器とは年代が異なります。この古墳にまつわる人々の集落も、どこかに存在しているはずです。そうすると、乃美地区には、弥生時代から現在まで人が住み続けていることになり、とても生活に適した環境であると言えるでしょう。

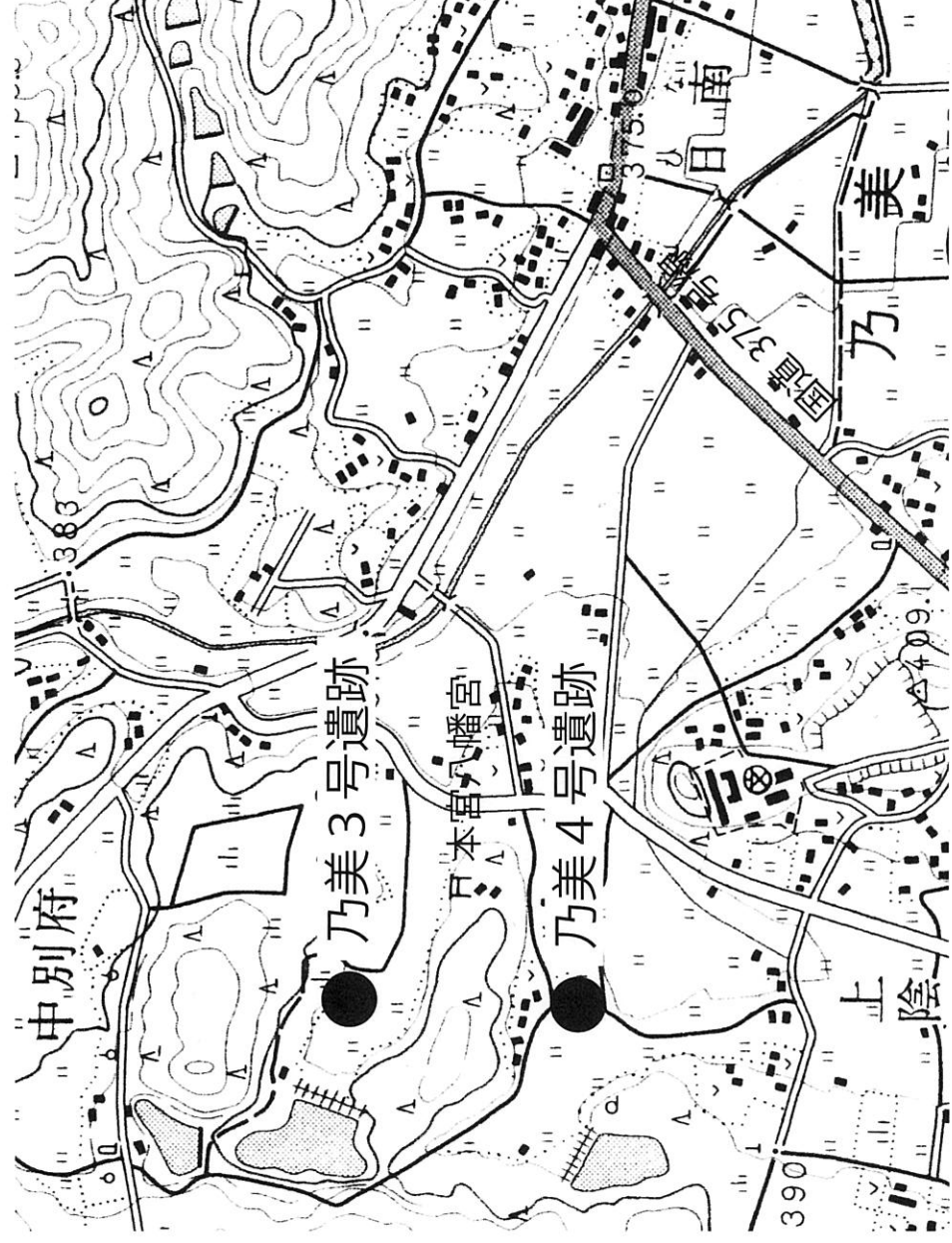


図1 乃美3・4号遺跡位置図 (1:10000)

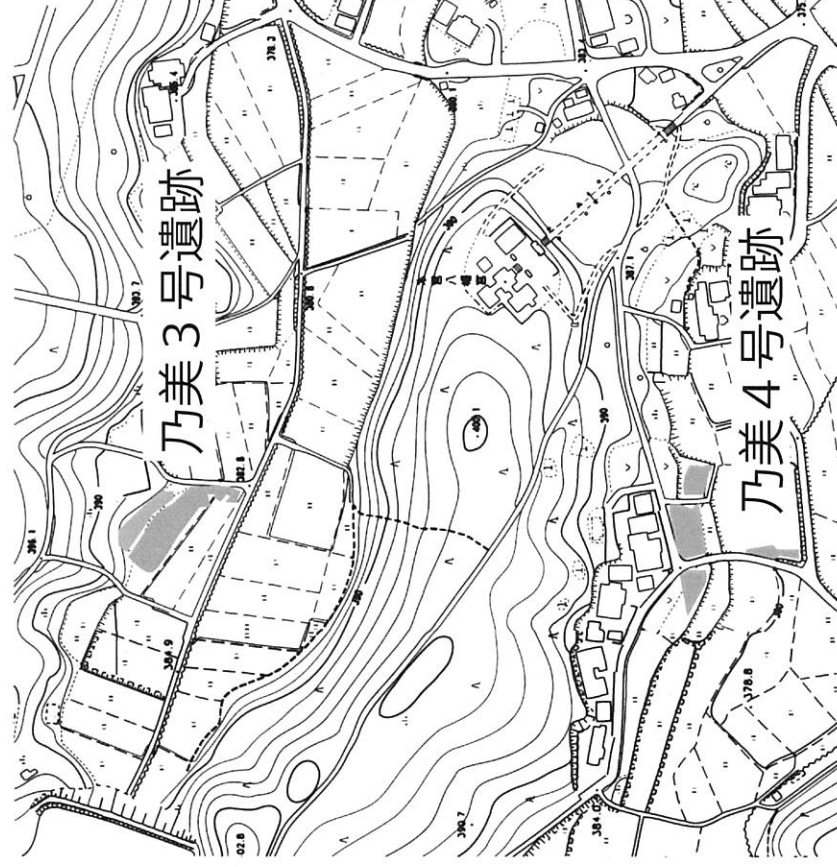
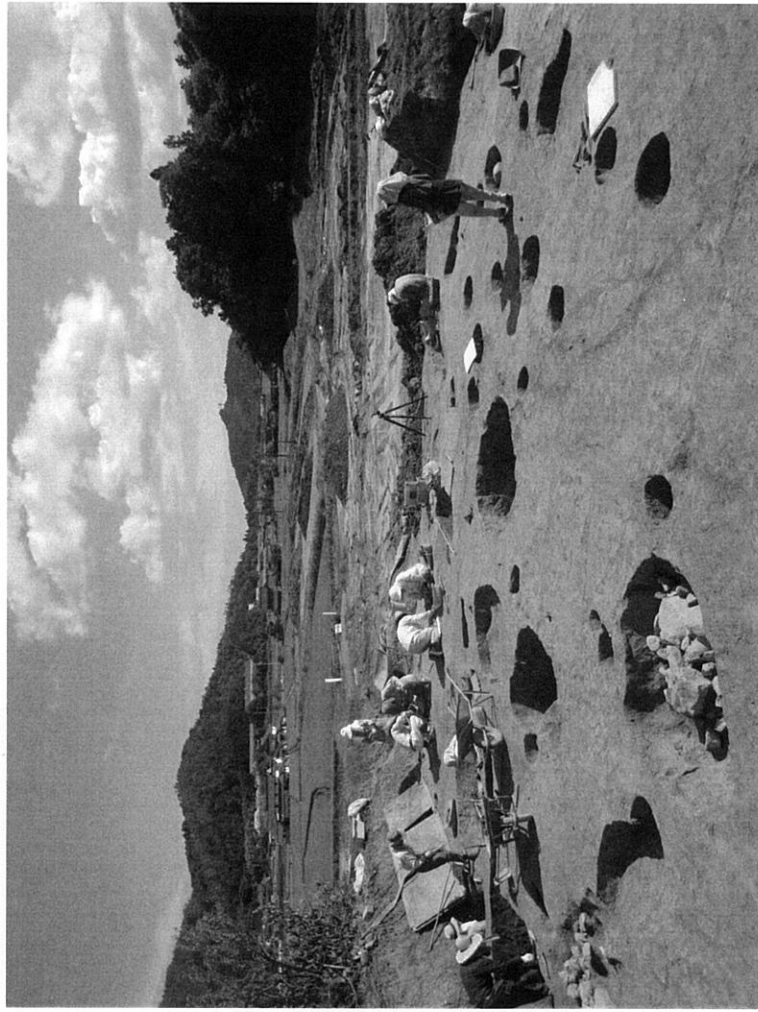
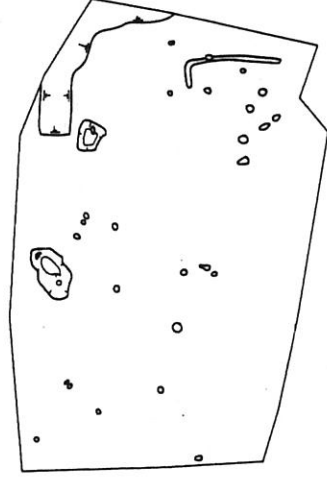
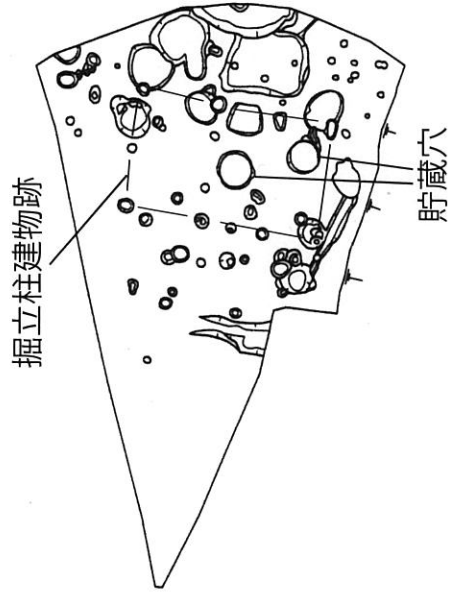


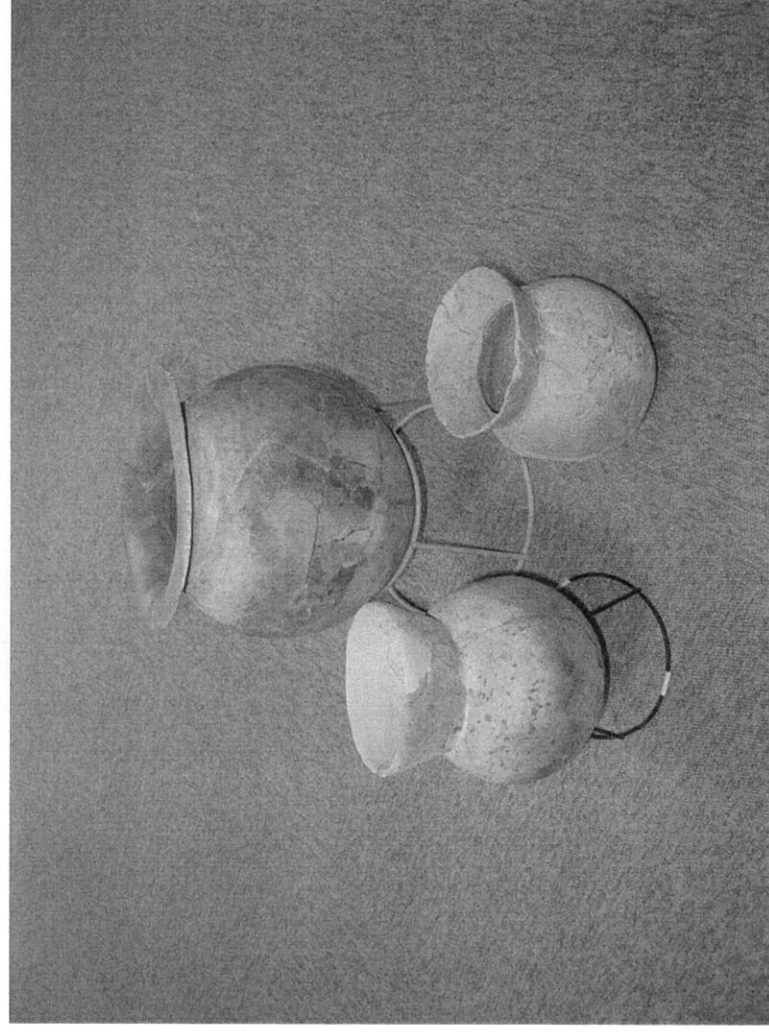
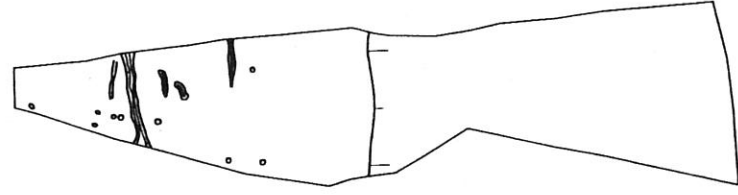
図2 乃美3・4号遺跡地形図 (1:5000)



図3 乃美3号遺跡遺構配置図（1：300）



乃美4号遺跡 掘立柱建物跡（北から）



乃美3号遺跡 古墳時代の土器（土師器の壺）

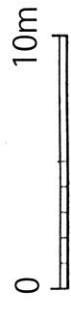


図4 乃美4号遺跡遺構配置図（1：300）

御建遺跡の発掘調査

財団法人東広島市教育文化振興事業団
文化財センター 増田 晴美

1. はじめに

所在地：東広島市西条町西条

調査期間：平成 22 年 7 月～8 月の 2 ヶ月間

調査面積：173.57 m²

調査原因：都市計画道路西条駅北広場造成事業に伴う

J R 西条駅北側、約 10m に位置する遺跡で、平成 20 年度から行なっている発掘調査の 3 次調査になります。今回の調査範囲は平成 21 年度調査区の西に隣接しています。前年度の調査では、道状遺構や厩跡の可能性のある掘立柱建物跡、醸造関係とみられるレンガ建築物が見つかっています。

2. 検出した遺構について

・ 1 面

石組井戸 1 基、土坑 4 基、掘立柱建物跡 1 棟、溝 1 条

・ 2 面

池跡 1 基、溝 1 条

【石組井戸】

直径 2m、深さ約 3.3m で、地表から底までさまざまな大きさの石が積み上げられていました。石材の中には五輪塔の一部や石仏を再利用していました。前年度調査でも 7 基の井戸が見つかっていますが、石組の井戸は初めてです。

【池跡】

幅が東西 3.5m、南北 2.5m の範囲を検出しました。深さは 1.5m で池全体の南東隅にあたると考えられています。池からは、幅 2 m、深さ 0.4m の溝が 1 条東へ伸びていて、前年度調査で検出した溝と幅や方向が一致します。この溝は谷筋へ向かって伸びていることから、池からあふれ出た水を排水するためのものではないかと考えられます。

3. 出土した遺物について

備前焼（甕）、土師質土器（すり鉢、小碗、皿）、五輪塔（空・風輪、火輪、

水輪、地輪) 45 個、石仏 9 体、壁土、枅、折敷の縁、箸

【石仏】

前年度の調査で出土したのもも合わせると、全部で 11 体になります。すべて、花崗岩製でかなり風化が進んでいます。光背の裏部分が欠けていたり、顔や体の表現が中途半端で不鮮明であることから、未製品と考えられます。彫り方の特徴から 1 人ではなく、複数の石工が存在する可能性があります。

【枅】

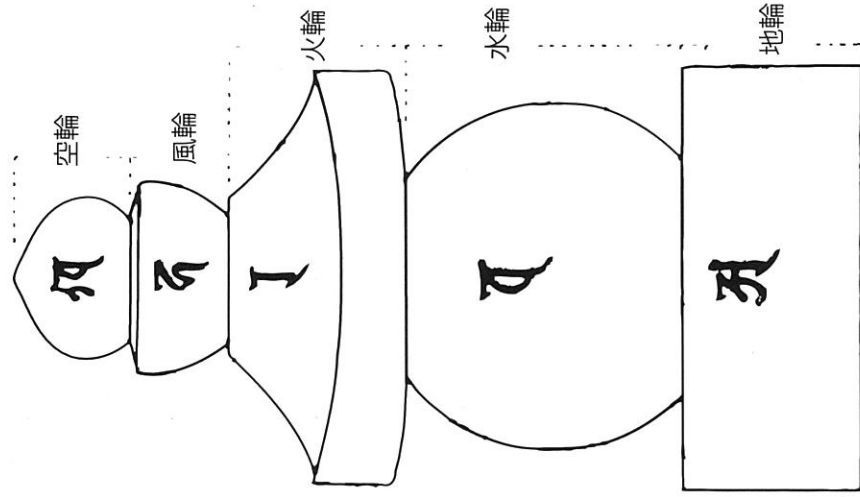
大きさは、約 8 cm の正方形で、高さは 3 cm ほどです。外側から側面を 2 カ所、底を 4 カ所、竹の釘で留めています。現在の枅と比べるとやや小さいようですが、1 合枅のようです。

4. 調査の成果

- ・四日市宿との関連性
- ・ため池跡の調査例
- ・16 世紀後半に町の拡張が行なわれている。中世山陽道も通っており、このころ町が発展するようないかなの出来事があったと考えられる。

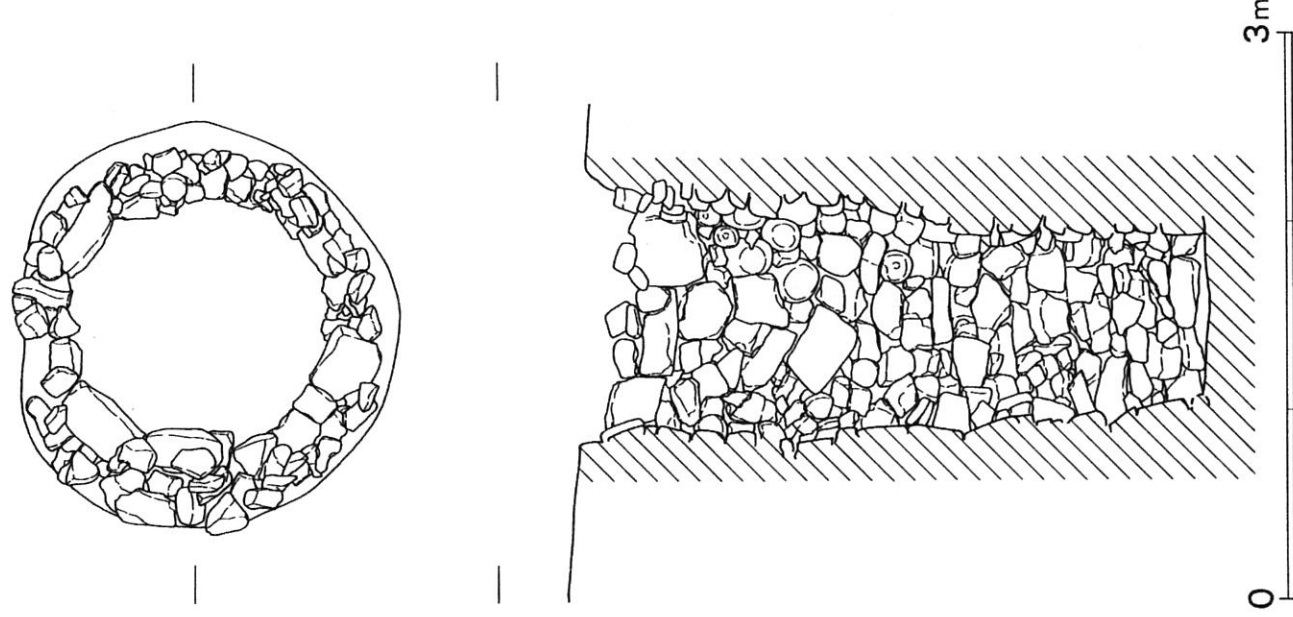


御建遺跡 位置図

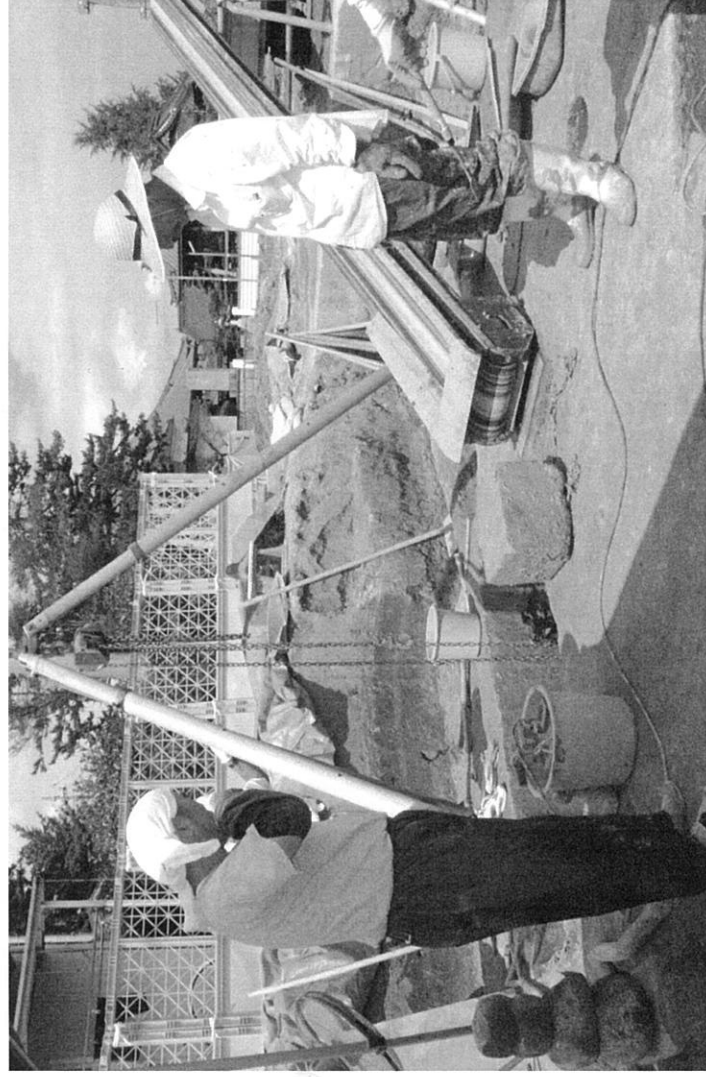


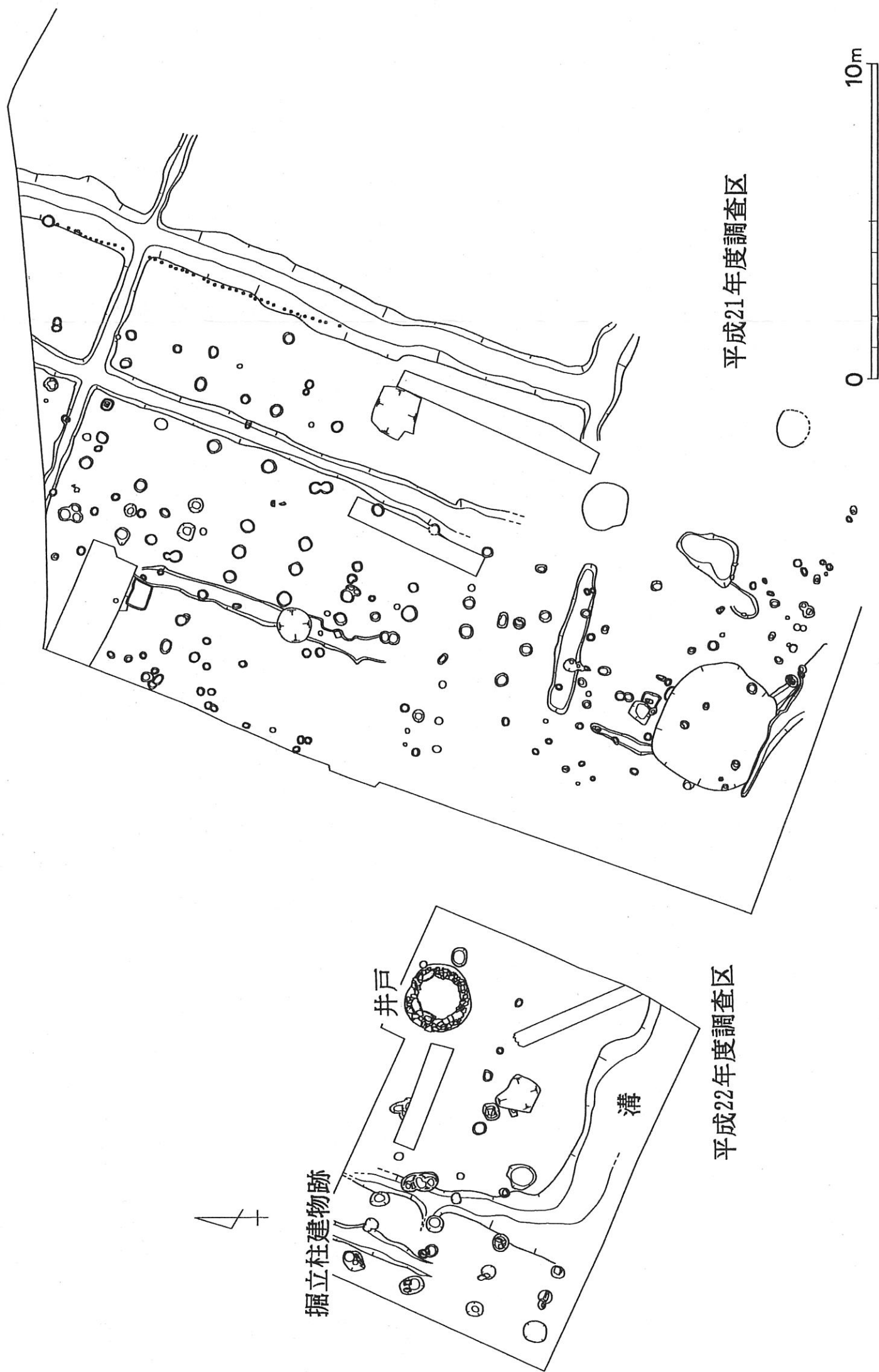
五輪塔

『図録・歴史考古学入門事典』坂詰秀一

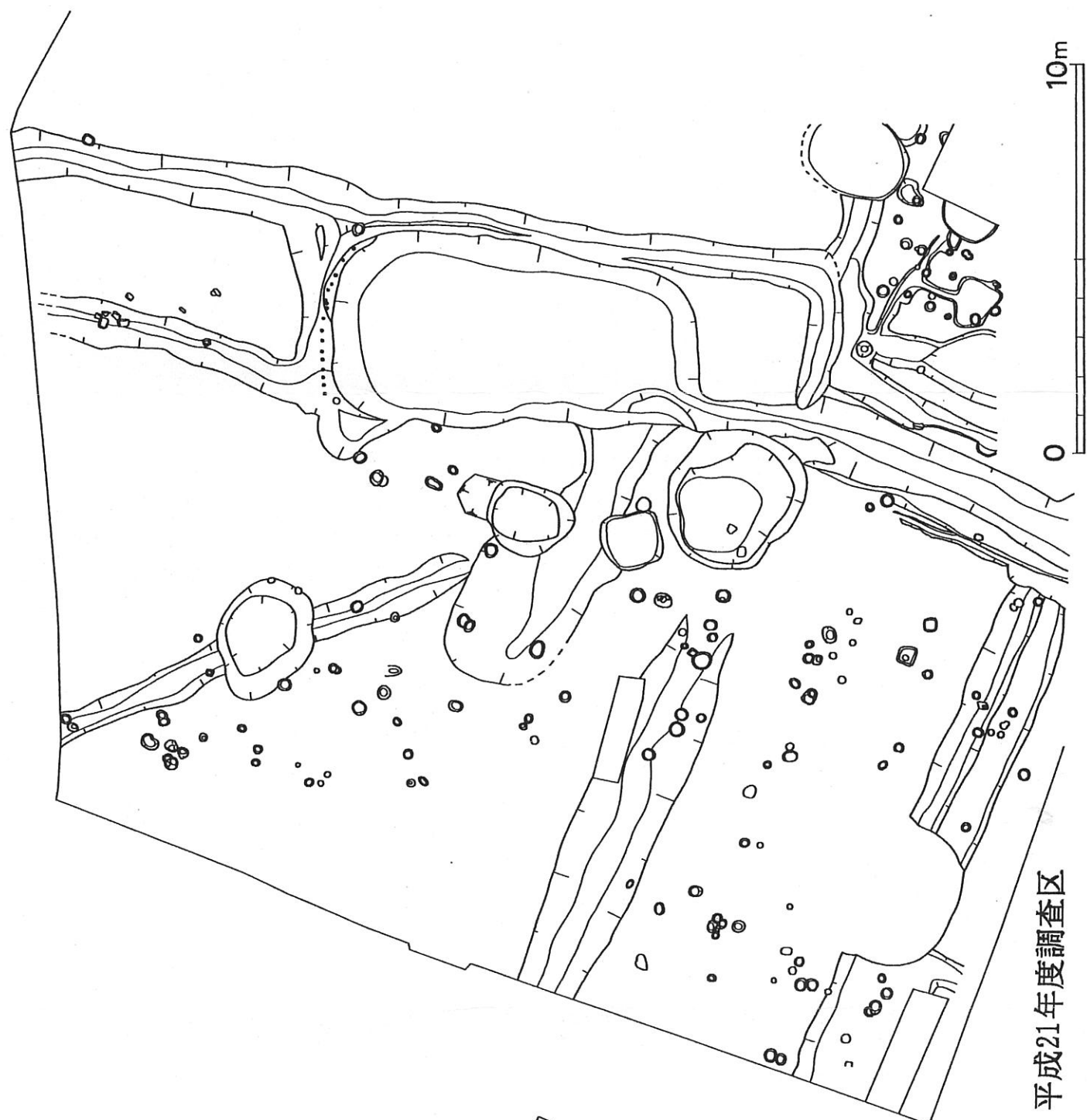


No.22 (井戸) 実測図 1 : 40

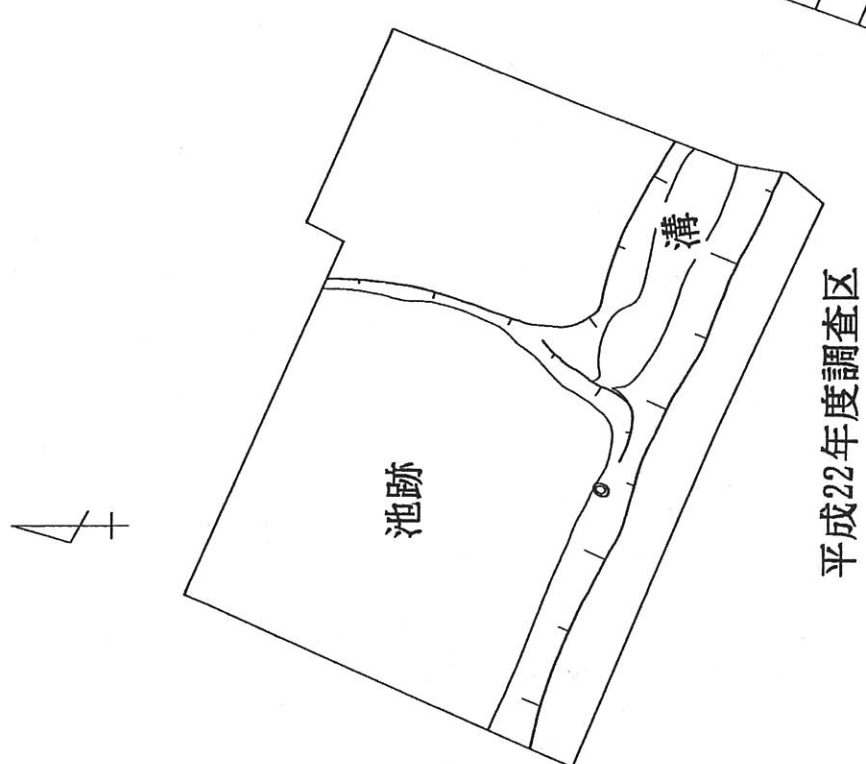




第1面遺構配置図 1:150



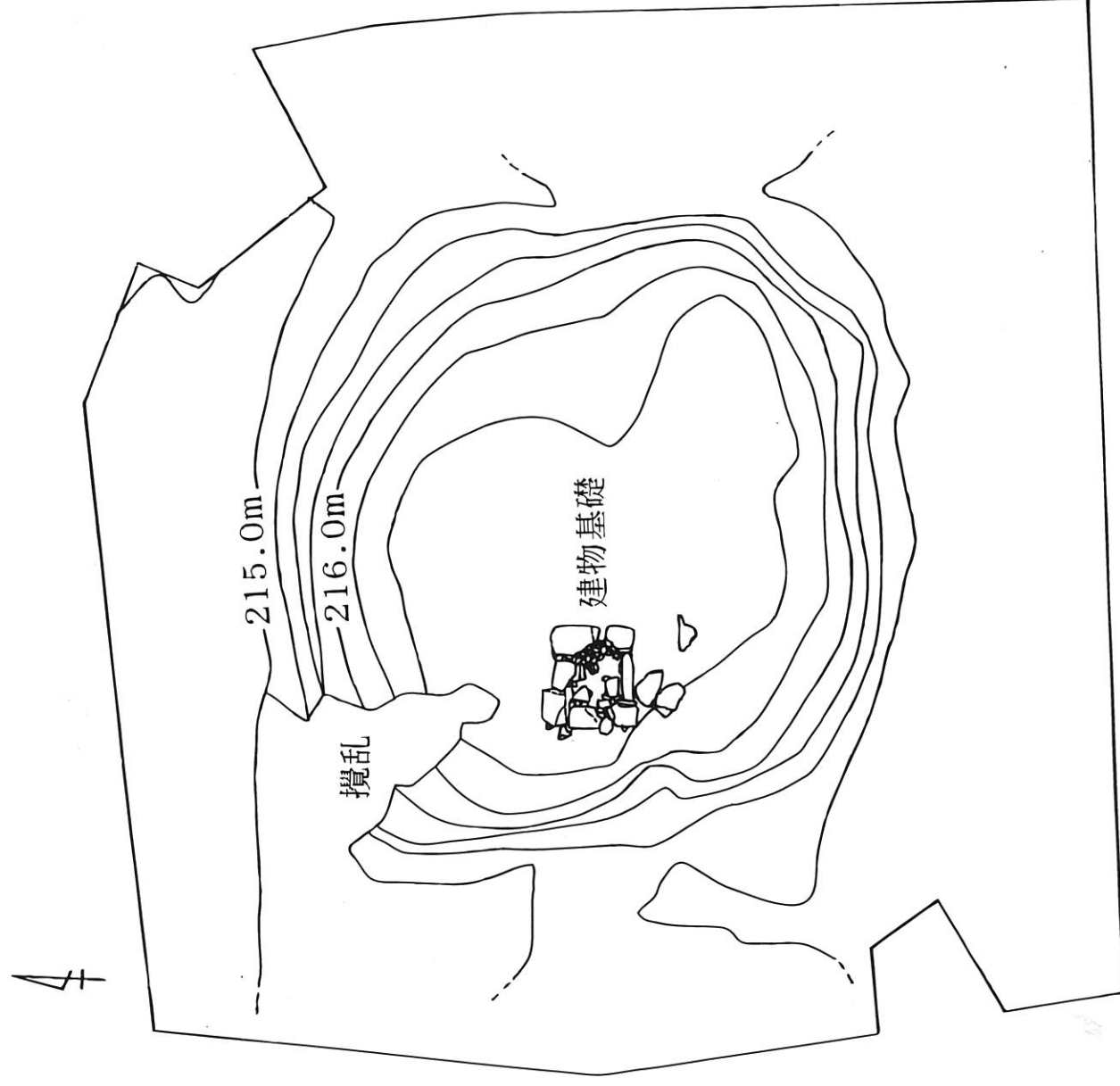
平成21年度調査区

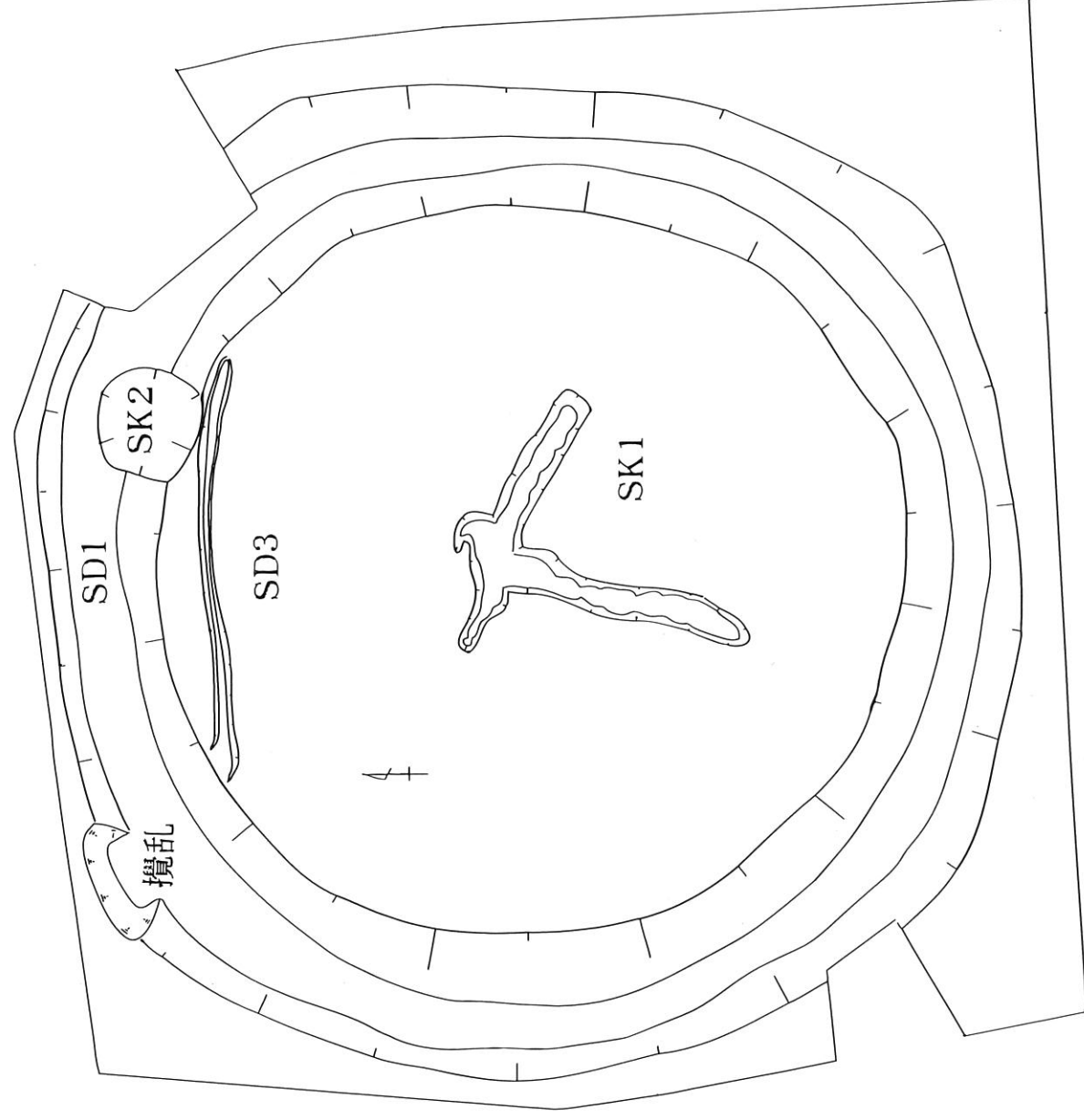


平成22年度調査区

第2面遺構配置図 1:150

中組遺跡の発掘調査





中組遺跡位置図